

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	親子を支援につなぐ ひとり親家庭の食の支援事業
資金分配団体名:	公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
実行団体名:	特定非営利活動法人やまがた育児サークルランド
実施時期:	2020年11月～2021年10月
事業対象地域:	山形県
事業対象者:	ひとり親家庭、東日本対震災避難家庭

Version 3.2

日付: 2021/11/15

I. 事業概要

事業実施概要	pont tree caféにおいて、食事やカフェメニューを提供しながら、親や子どもの相談に対応し、子育てや子育て支援の情報を提供する。ひとり親家庭、東日本大震災後の避難家庭など課題を抱える親子に食事を提供したが、事業期間中新型コロナウイルス感染症の流行により緊急事態宣言が出されるなど、会食の機会が大きく制限されたため、テイクアウトの活動を中心として食事の提供を行う。また、感染症流行の状況に対応し、熟食や密を避ける工夫をしながら、ひとり親家庭向けに定期的イベント・行事として毎月第1日曜日の「日曜ランチ会」や第3日曜日の「シンシンの会」を開催する。感染症の影響で、ボランティア受け入れは限定的であったが、学生ボランティアと子ども達が交流する機会を提供し地域とのつながりを作ることを目指す。参加した親子の状況を把握し、必要に応じてほかの活動の情報を提供し利用につないだ。他機関と連携して地域の社会資源につなぎ、孤立傾向にある親子の居場所として継続的に支援を行う。
--------	--

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	課題としては、感染症の流行が長く続くことにより、親子が利用する子育て支援施設が閉鎖され親子の孤立傾向が強くなる、外出が制限されストレスの高い状態が継続する、育児不安が大きくなる傾向など予想通りの課題が明らかになった。さらに、このような課題が深刻化する傾向も伺われた。想定した対象者は、ひとり親家庭の親子や東日本大震災で避難してきた家庭の親子であり、登録制にすることで各家庭の連絡先を把握し、継続的に周知し利用してもらえるように工夫した。これによって、こちらの活動を定期的に知らせ参加を呼びかけることができ、支援に結びつけるアプローチができた。結果として、単発の利用にとどまらず期間中継続して利用してくれたり期間をおいて利用したり、家庭の実情に応じた利用ができたものと思われる。また、活動内容の大きな変更点としては、感染症蔓延期をきっかけに、カフェでの会食からテイクアウト中心となったことである。これによって、働いている親が利用しやすくなり、不安の高い親でも利用への心理的なハードルが下がり、イベント・行事にも参加するようになるなど支援に結びつけることができた。
-------------------	--

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
ひとり親	居場所の不足	孤立しがちな乳幼児家庭、ひとり親家庭、避難家庭等のべ300世帯の親子に食事の提供が行われる。支援者や地域住民との交流会が月1回行なわれ、親子が支援につながり、相談先が複数ある状態になっている。	食事の提供数、イベントの実施回数と参加者、ボランティア数、多様な子育て支援につなぐためのミーティングの実施回数、個別につなげる家庭数	食事提供数（1040食） イベント実施回数（12回） 参加者（120名）	食事提供数（1302食） イベント実施回数23回 参加者 188人	のべ570世帯の親子に食事の提供が行われた。夕食のテイクアウトに重点をおいたため、利用が促進された。
				ボランティア数（60名） ミーティング実施回数（6回）、 個別支援につなげる家庭数（15世帯）	ボランティア数（12名） ミーティング実施回数（12回） 個別支援につなげた家庭数（12世帯）	感染症流行に対応し、密を避けるためイベント・行事の頻度を増やし、1回あたりの参加者数に定員を設け制限した。
				ひとり親家庭に通年で食事が提供できる(定休日以外)ようになる。 イベントが継続的に実施される。親子が支援につながり、相談先が複数ある状態になっている。	通年利用数（1302食中67食）	子どもの対応がうまくできない親(強い言葉で叱る、手が出るなど)への支援を検討したり、メニュー、食育、行事などの企画会議を行った。 自団体の子育て支援活動や他機関と連携して支援した。おやこ広場や一時預かりの利用、就業準備のPC講座の参加などにつながった。

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況	ひとり親支援活動を安定的に実施でき、親子が集い交流できる居場所を継続できるようになる。 「子育てランドあ〜べ」の活動との相乗効果で、育児情報提供、離乳食支援、食育活動などを通じ、親同士の交流が深まり、親同士が助け合うピアサポート機能が強化される。例えば、同じくらの子どもを育てる親同士という、ヨコの関係だけでなく、ひとり親としてがんばってきた先輩ママとのタテの関係が生まれ、助けあう人間関係が生まれる、などである。 pont tree caféがひとり親家庭や地域に認知され、子育て家庭と地域住民が交流する機会を定例化し継続的に行われる。
考察等	月1回開催のシングル親子が集い生活や子育てについてピアサポートとなり仲間づくりを行う『シンシンの会』、地域や年齢に関係なく食事や遊びを通じた交流を楽しむ『日曜ランチ会』は定期的に行うことで参加人数が安定した。食を共にすることで互いがより身近になり繰り返し会うことにより、食プラス「あの人に会いたい」への変化もみられた。コロナ禍で行き場を失っていたシングルマザー親子の居場所づくりとして、コミュニティカフェ、支援施設両方を利用したことで行政や地域資源とも連携を深めやすくなり『子育てランドあ〜べ』として、いままですべての生活保護者や母子生活支援施設入居者の利用に繋がった。今後も様々な親子のヨコとタテの関係が生まれつつあると考えられる。新型コロナ感染の減少が進んでいるが、本当に支援が必要となのはむしろこれからである。受け入れ緩和でのボランティアの活動にも期待し、事業の継続につなげていきたいと考えている。

V. 活動

活動	進捗	概要
シンシンの会(ひとり親家庭)	計画通り	情報交換や交流に食事の提供が加わったことで、親がリラックスして過ごしたり話が弾むようになり、子ども同士も異年齢の関わりができて楽しく遊ぶことができた。親同士が相談しあい、助け合う関係づくりができた。
ひとり親家庭の交流イベント(地域連携)	計画通り	日曜ランチ会として、定員を設け頻度を増やして開催した。スタッフとの信頼関係ができて親子の居場所として認識してもらうことができた。
元気もりもりランチ提供(ひとり親家庭・避難者家庭)	ほぼ計画通り	子どもを連れてランチタイムにゆっくり食事してもらった。食事風景から子育ての状況を推測し、子どもへの接し方などの啓発資料を何気なく手渡すことができた。緊急事態宣言時には外食を控える風潮になり、テイクアウトでの食事提供に切り替えた。12～2月は週1回、3～8月週2回、9～10月週3回と、ニーズに合わせ実施回数を増やしていった。平日ランチタイムに来れない人や、仕事で余裕がなく子どもとなかなか関われない人に好評で、「子どもと過ごす時間ができた」「家計が助かる」「子どもの栄養まで手がかけられないが、手作りのご飯ありがたい」などの声があった。避難者支援では、継続利用の家庭があり、「どんどん支援が縮小する中で本当にありがたい」と感謝された。福島に帰る家庭と見送る家庭で利用されることがあった。

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	当初想定していなかった母子生活支援施設入居者の利用があり、最終的に5家庭が登録し利用した。生活保護受給家庭や母親自身が障がいをもつなど、より困難で支援が必要な家庭である。コロナ禍で経済的に困窮していたり、就労し何とか自立しているものの、職場や家族関係、子育てなど悩みが深い家庭が多く、相談にのったり他の支援の利用につないだ。今後、関係機関と連携しながら支援を継続したい。
---------------------	---

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	事業による効果は大きかったが、山形市内にはまだ支援につながっていない家庭や困窮している子育て家庭が存在すると考えられる。事業実施後も感染症の影響下により「子育てランドあ〜べ」の飲食コーナーは閉鎖のままであるなど活動に制限がある状況である。今後、ふたたび感染症が蔓延するような事態になった場合、これまでの経験をいかして、引き続き、相談対応、食事の提供、居場所づくりなど、できることを模索しながら活動していきたい。また働くシングルマザーの平日利用が困難なことと、コロナ感染拡大の感染リスク回避を考へて始めた夕食のテイクアウトは思った以上に必要な支援であった。心身とも余裕のない母親にとって、食事の買い物や調理、片付けから開放され時間に余裕を持つことが、子どもの虐待回避につながったことは受け渡し時の母親たちの言葉で察することができた。大震災から10年、避難者支援が減少するなか、まだまだ福島には戻れずにいる親子からは「取り残された気持ちになっていたがこの支援のおかげで元気がもたらえた。」と話があった。山形と福島で離れて暮らす家族と一緒に食事ができる場所になるなど、今後もニーズに答えるために、新たな事業の計画を行っていく必要があり、様々な支援との連携も視野にいれて取り組んでいきたい。
-----------	---

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
山形市	ひとり親家庭への情報提供のため、チラシなどを設置し広報に協力してもらった。
山形市家庭支援課	生活困窮者のシングルマザーの現状把握、山形市の相談事業につなぐ。
母子生活支援施設	担当者に挨拶し、今後必要に応じて連携することを確認した。

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。(精算金額と一致させる必要はありません)

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	3,614,155	3,633,575	100.5%
	管理的経費	571,111	577,701	101.2%
合計		4,185,266	4,211,276	100.6%
補足説明				

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載 (TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等)	山形新聞 災害の教訓と対策「3. 1 1」東日本大震災から10年 ワンコインで味わえる支援メニュー紹介 3.11掲載 山形新聞 親子を支援につなぐ ひとり親家庭の食の支援事業にJA山形よりさくらんぼ贈呈式 6.19掲載 山形さくらんぼTV、山形TUY 事業の内容説明と夕時テイクアウトの利用について 6.18放送
2.広報制作物等 当該事業費を使って製作したもの	チラシ ひとり親親子支援・避難者に向け食事提供、イベントの実施予定、利用希望者への登録の仕方等 300部 チラシ 実施後半に向けた新チラシ 200部 月間イベント案内郵送分 DM 190部 利用チケット 2000枚 今後の「おいしいご飯!」利用についての案内 郵送分 40部
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法 (事例)	チラシ、利用時のチケット
4.報告書等	未作成

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	完了	経理規定については、整備が完了 令和3年度8月理事会において承認、運用開始
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	未公開	1月までに公開検討予定
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	いいえ	1月中に公開検討予定
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置していましたか。	はい	
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	はい	
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 外部監査	団体の監事による監査を実施し監査報告書の提出を受けた。又、受ける予定。
	<input checked="" type="checkbox"/> 内部監査	
	<input type="checkbox"/> 実施予定はない	
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	はい	